

[JAXA 宇宙飛行士 古川 聡さん 講演：“君も宇宙へ行こう！”]

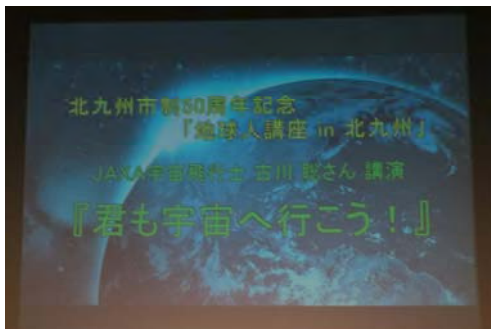
(北九州市スペースワールド“ギャラクシーホール” 470 名の子供と保護者が参加)

(公財)JAL 財団では、地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、2003 年から「地球人講座」と称する講座を各地で開催しており、17 回目となる今回は、「地球人」として 15 か国の方々と宇宙で活躍している古川宇宙飛行士に講演をお願いいたしました。

古川宇宙飛行士は、「君も宇宙へ行こう！」という講演タイトルで宇宙への出発時の様子、165 日間長期滞在された ISS での実験や生活の様子、帰還時の様子を映像で紹介してくださった後、宇宙飛行士の仕事、ソユーズ宇宙船、国際宇宙ステーション、「きぼう」日本実験棟、「こうのとり」貨物船、JAXA 宇宙飛行士、宇宙旅行等、ひとつひとつのテーマを丁寧に詳しくお話しいただきました。



©JAXA/GCTC



古川さんがISSで活動される姿や宇宙から見る地球をスペースワールド・ギャラクシーホールの日本最大の迫力あるスクリーンでみながら、ご本人から生のお話を聞いたことは、子供たち自身も古川さんと一緒に宇宙に行って実験したかのような錯覚になる素晴らしい疑似体験でもありました。

中でも無重力で、野球のピッチャー、バッター、キャッチャーの3役を一人でプレイする様子やうちわで前進できるかどうかを試す様子など、公募実験映像には笑いが起こりました。「きぼう」日本実験棟での実験成果と貨物船「こうのとり」は日本が世界に対して貢献している大きな二つの柱であるというお話を含め、日本人として誇りを持って宇宙研究に携わりたいという熱い思いがわいてくるような子供にとっても大人にとっても大変興味深いものでした。

最後の質問コーナーでは、応じきれないほどたくさんの子供達が、手を挙げて質問をしました。「ソユーズとスペースシャトルの違いは?」「宇宙で一番行きたい惑星は?」「宇宙で一番困った事は?」「宇宙食で思ったよりまずかった物は何?」「宇宙飛行士として一番大切な事は?」などたくさん質問に対し、子供たちの目線でわかりやすく回答し、質問した子どもたちひとりひとりと笑顔で握手する古川さんの優しく温かい姿勢は、偉大な遠い存在だった宇宙飛行士を身近に感じ、将来への夢を育ませる機会となりました。



1964 年神奈川県生まれ。2011 年 6 月から第 28 次/第 29 次長期滞在クルーのフライトエンジニアリングとして国際宇宙ステーション (ISS) に日本人宇宙飛行士として最長の 165 日間連続滞在し、「きぼう」での実験や ISS の維持管理を行ったほか、最後のスペースシャトルミッションとなった STS-135 ミッションの支援などを実施しました。(2013 年 12 月現在)